

進級おめでとうございます。 今年を「最高の1年」にするために…

進級おめでとうございます。いよいよ新しい学年、3年生がスタートしました。中学校生活最後の年である今年を、最高の1年にしてほしい、と先生たちは思っています。

この記念となる3年の年度当初に当たり、今年をどんな年にしてほしいか。以下に書きます。

今年をこんな年に…

① 日々の生活を大切にしよう。

今年はいうまでもなく進路決定の年です。君たちがこれからどんな人生を歩むか。そしてその一歩となる、どんな進路選択/希望進路実現をするのか。その準備のための1年でもあります。勉強ももちろん気になるところ…ですが。まず日々の生活や、学校行事などを、新しく出会った仲間と全力で取り組みましょう。時にはぶつかることもあるかもしれません。でもその一つひとつの体験が、これから君たちが大人になるための大切な糧となります。さらに、これからの生活で、新たな仲間と過ごす「適応力」にもつながります。新しい仲間ともどんどん話しましょう。そして行事だけでなく、掃除や給食配膳などの日常の学級活動もすすんで行い、充実した学校生活を過ごしましょう。

② 学力を身につけよう

(1) 毎日の学習を大切にしよう。

3年生というこの1年は、3年生として新しく学習する内容も当然あります。加えて、受験に向けた3年間の学習内容の総復習も計画的にすすめていく必要もあります。大切なのは、「日々やるべきことを直実に行う」ことだと思います。授業で課される宿題や提出物など、確実にやり、授業を大切にしましょう。

(2) 3年間の総復習に取り組もう。

日程や範囲などは改めて連絡しますが、3年生では定期テストのほかに、「復習テスト」というテストを3回計画しています。復習テストというのは、中学校3年間の五教科(国社数理英)の学習内容の確認をテスト形式で行うものです。この復習テストで、3年間の総復習に取り組んでほしいと思います。これまでの長三中の先輩たちもこの復習テストに取り組んできました。受験時の受験科目は学校により異なりますが、この復習テストで「3年間の学習範囲すべて」を試験範囲とし実施します。計画的に取り組むことで、受験に向けた準備を進めていってほしいと思います。

③ 先生の話をしっかり聞く。提出物の期限を守る。

1年後の希望進路実現のためには、学習以外にもしなければならないことがあります。それは、「先生の話をしっかり聞く。そして提出物の期限を守る。」です。

希望する進路により異なりますが、受験(受検)に関わって準備してもらう書類や、高等学校に提出する書類や、その準備として複数回実施する「進路希望調査」など、様々な提出物や確認事項があります。今までに先生から「提出してください」と連絡のあったプリント類について、それぞれの期限を守って提出できていましたか?保護者の方に見せなければならぬプリントが、机の中やカバンの中で眠ったままになっていませんか?進路関係の提出物には「忘れていました、すみません」では済まないものもあります。提出物について、しっかり期限を守る。そのために、先生の連絡をしっかり聞く(重要なものはメモをとるなどして管理すること)。しっかりやりきりましょう。

④ 「正しい」情報を得る。

各高等学校等から、説明会や授業体験、部活動体験などの多種にわたるチラシ(パンフレット)が届きます。最近では多くの学校がそのチラシにあるQRコードを用い、学校体験に申し込む形をとっています。この機会を用い、ぜひ複数の学校体験に参加してください。そしてそれぞれの「校風」を、実際に体感してください。よく「ネットで口コミを調べたけど学校の雰囲気…」という人がいます。でもそのようなインターネットの書き込みは、誰が書いたかもわからないものです。自分の目で、正しい情報を適切に集める意識を持ちましょう。

⑤ 自分の将来についての考えを大人に相談し、アドバイスを受ける。

自分の将来について、まだぼんやりとしか考えていない人は多いと思います。現段階では「どこの高校に進学しようか、合格できるか」が最も気になることではないでしょうか。しかし高等学校等の進学先だけでなく、将来どんな仕事についてどんな人生を歩むか。今年はこのこともしっかり考えるべきだと思います。そのために、中学校卒業後の進路はこれからの大切な一歩となります。

みなさんの周りには多くの「人生の先輩」である大人がいます。進路選択について、保護者や先生たちなどの大人に相談しましょう。「人生の先輩」の体験談などを通して、学べる事もあるはずです。そして少しでも客観的な判断ができるようにしましょう。

高く飛ぶために、低くかがむ必要がある。

長く書きましたが、最後にある言葉を紹介します。

iPS細胞の研究でノーベル医学・生理学賞を受賞した京都大学の山中伸弥教授の言葉に、「高く飛ぶためには、思いっきり低くかがむ必要がある」というものです。

山中教授は、研修医時代に、手術の手際の悪さもあり、大きな挫折を味わったそうです。さらに、研究者の道にすすんでも、自身の研究が日の目を見ることがなかなかなく、研究をやめる直前まで追い込まれたそうです。それでもコツコツと検証を繰り返し、やがてiPS細胞を人工的に樹立することに成功します。

そんな山中先生が後に、「もうダメだと思ったところから、もうひと踏ん張りすると、新しい展開が待っている」、「高く飛ぶためには、思いっきり低くかがむ必要がある」と語っています。なかなかすぐに結果が出ず、悩むこともあるかもしれませんが。そんなときもたまめ努力を惜しむことなく、前向きにチャレンジしていきましょう!

